松下記念
図書館
開館50年記念

写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ

慶應義塾大学 理工学メディアセンター

CONTENTS

2 『写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ』刊行にあたって
理工学メディアセンター所長　田中敏幸

3 第１章　1939-1971
工学部図書館誕生

9 第２章　1971-1999
松下記念図書館の時代

21 第３章　2000-2021
創想館竣工から現在

35 資料

36 企画展示

38 イベント

40 統計

41 館長・所長一覧

42 主要参考文献・写真提供

編集後記

EPISODES

15 松下記念図書館の思い出 —— 青山 藤詞郎

16 矢上の動植物 —— 長島 敏樹

18 バイルシュタインとグメリン —— 長島 敏樹

20 矢上お花見の会 —— 三谷 三恵子

22 Gateway or Ladies' room —— 関口 素子

25 学位論文とTeXと… —— 木下 和彦

26 データの宝庫としての交流と憩いの場 —— 村上 俊之

27 グループ学習室の新設 —— 吉井 由希子

31 ラーニングサポートの活動 —— 定光 勇太

34 松下記念図書館開館50年に寄せて —— 伊藤 公平

MESSAGE

『写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ』刊行にあたって

理工学メディアセンター所長　田中 敏幸

理工学メディアセンターの本館である松下記念図書館が開館してから2021年10月で50年が経ちました。50年という年数は十分に長い年月ですが、この間の技術革新のペースが非常に早く、半世紀があっという間に過ぎたという印象です。

学生時代は、授業で使った教科書や自分で選んだ書籍をできるだけ丁寧に扱い、自分の部屋の本棚をいっぱいにすることに満足感を抱いていたのを思い出します。しかし、書籍の保管はなかなか難しく、置く場所によっては日焼けをしたり、カビが生えたり、虫に食われたりしました。カバーにビニールを貼るなど、いろいろな手段を講じて書籍を長持ちさせる努力もしました。しかし、年を経るにつれて数が次第に増え、保存するのも難しくなりました。その結果、古い書籍は捨てざるを得ない状況になっています。

1980年代に現在の電子書籍の先駆けとなるような研究を見たことがあります。最近では見られなくなったフロッピーディスクを記録媒体として小型のディスプレイに文字を表示するもので、アイデアは面白かったのですが、書籍をどのように電子化して普及させるかというのは、まだ当時大きな課題でした。そういった過去の様々な試みが技術的、制度的な発展を遂げ、今の電子書籍サービスにつながっています。

書籍を置くスペースの節約ということもあり、私自身も最近は電子書籍を購入することが多くなりました。また、電子書籍の優れた点として、リーダーで文字の大きさを変更できるということがあります。加齢に伴う視力の低下をテクノロジーで補えるのは大変助かります。電子書籍は、リーダーで音声に変更することもできるので、オーディオブックとして利用することもできます。本は読むものという従来の概念が変わってきているのかもしれません。

慶應義塾のなかで図書館がメディアセンターと呼ばれる施設へと姿を変えてきたように、書籍が電子化されることによってこれまでとは違ったサービスが現れてきました。現在、書籍や本という名前で呼ばれているものが、今後もそのような呼ばれ方をするのか、あるいは利用方法やサービスが変化することによって全く違うものになったりするのかも知れません。

本誌では、写真とともに年表形式で理工学メディアセンターのあゆみをたどっています。これまでの50年を振り返るとともに、次の50年でどのように変わっていくのかも想像しながらご覧ください。

第 1 章

1939-1971

工学部図書館 誕生

Photo：藤山工業図書館（福澤研究センター所蔵）

藤原工業大学開校式

※年表のグレーの年月は理工学部、
カラーの年月は図書館関連の出来事を表す

藤原工業大学

1939（昭14）.6

藤原工業大学開校

機械工学、電気工学、応用化学の
3学科を置く単科工業大学として
慶應義塾の日吉キャンパスの
一部に開設

藤原銀次郎

藤原工業大学と藤山工業図書館

藤原銀次郎を理事長、当時の慶應義塾長・小泉信三を学長として藤原工業大学が1939年に創立され、のちの1944年8月に慶應義塾大学工学部となった。
藤山工業図書館は藤山愛一郎氏より義塾に寄付され、もうひとつの工学部図書館として1957年まで利用された。

藤山工業図書館

1944（昭19）.3

藤山愛一郎氏、芝白金の
藤山工業図書館を義塾に寄付

藤山愛一郎
（国立国会図書館
「近代日本人の肖像」より）

藤山工業図書館
（福澤研究センター所蔵）

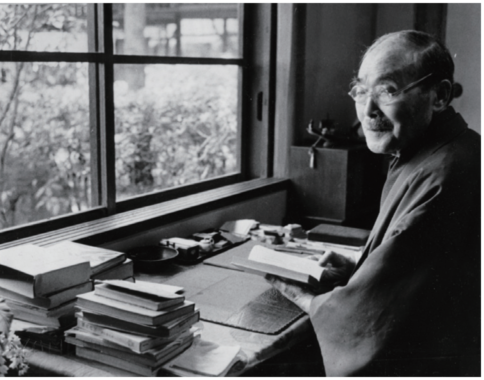
1944（昭19）.8

慶應義塾大学工学部開設

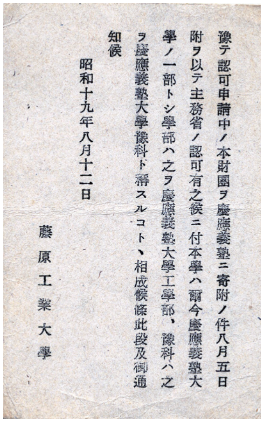
藤原銀次郎氏より
藤原工業大学が義塾に寄付され、
慶應義塾大学工学部が誕生

1944（昭19）.8

藤原工業大学校舎にあった
徳川武定子爵旧蔵の「戸定文庫」を中心とした
資料室が工学部図書館の起源となる



藤原銀次郎　自邸書斎にて



豫テ認可申請中ノ本財團ヲ慶應義塾ニ寄附ノ件八月五日附ヲ以テ主務省ノ認可有之候ニ付本學ハ爾今慶應義塾大學ノ一部トシ學部ハ之ヲ慶應義塾大學工學部、豫科ハ之ヲ慶應義塾大學豫科ト稱スルコト、相成候條此段及御通知候

昭和十九年八月十二日

藤原工業大學

藤原工業大学が慶應義塾へ
寄付された旨の通知葉書

1945（昭20）.4

空襲により予科校舎全焼、
学部校舎8割が焼失、
工学部図書室も灰塵に帰した

1949（昭24）.3

いくつかの仮校舎を経て
工学部キャンパスの小金井移転が決定し、
図書室の設置が計画された

焼失前の予科校舎（福澤研究センター所蔵）

1944（昭19）.8

工学部の図書館となり、
初代館長として谷村豊次郎
学部長が就任

藤山工業図書館館内
（福澤研究センター所蔵）

工学部図書室が消失したため、
藤山工業図書館をしばらくの間使用

1957（昭32）.4

工学部の小金井移転に伴い藤山工業
図書館の利用が減り、明治生命保険
（現明治安田生命保険）に売却

この資金により、1958年日吉キャンパスに
藤山記念日吉図書館を建設

蔵書は藤山記念図書館および
小金井の工学部図書室に収蔵、
その後松下記念図書館に移管

戦争の災禍 ―工学部のキャンパス移転―

1945年4月の空襲により日吉キャンパスが被災、終戦後9月に米軍がキャンパスを接収し、本拠地を失った工学部は以後仮校舎を転々とする。
1949年に小金井キャンパスが開設され、溝口仮校舎、登戸仮校舎が移転した。
1950年11月には、志木分室の応用化学科が合流し、ようやく工学部は小金井の地に落ち着くこととなった。

溝口仮校舎

『慶應義塾大学理工学部75年史』p.16より引用

上／登戸予科仮校舎
右／登戸予科仮校舎
（裏側から見た本館）

小金井図書館

小金井校舎正門

小金井キャンパス工学部図書室

小金井キャンパス 開設

1949（昭24）.4

小金井キャンパス開設

1952（昭27）.4

工学部図書室開設

鉄筋コンクリート2階建書庫と
木造モルタル造りの閲覧室が開設された

1957（昭32）.4

計測工学科新設

1958（昭33）.4

工学部図書室を中央図書館
（三田）小金井分室に改称

1959（昭34）.4

管理工学科新設

工学図書館カウンター

1964(昭39).3

畠山文化財団の寄付を受け
図書室増築が9月に完成

1965(昭40).10

図書館小金井分室を慶應義塾
工学図書館に改称

1970(昭45).3

日本科学技術情報センター(JICST)より
理工学関係資料の寄贈を受け移管開始

1979年3月まで続き、総数約6万冊に達した

慶應義塾工学図書館入口(小金井キャンパス)

小金井図書館外観

小金井図書館内部

第 2 章

1971–1999

松下記念図書館の時代

Photo：1997年当時の松下記念図書館

松下記念図書館の建設

松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）の創業者である
松下幸之助氏からの寄付により、1971年に松下記念図書館
（現在の理工学メディアセンター本館）が矢上に建設された。

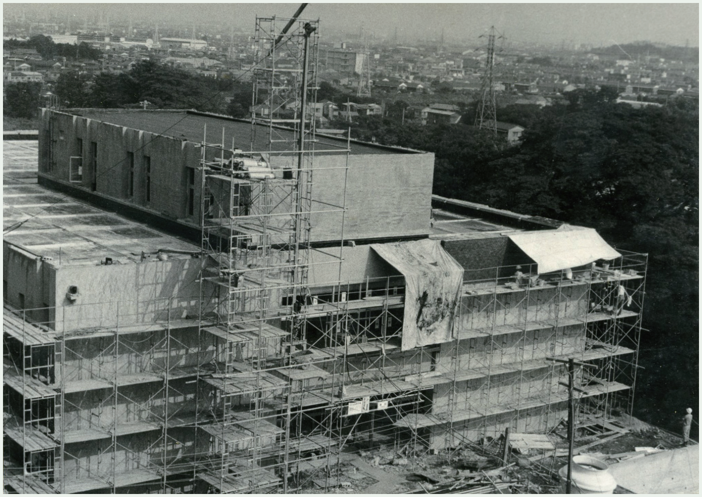
1971（昭46）.2 松下記念図書館の地鎮祭が執り行われた

1971（昭46）.4 着工

松下幸之助氏（写真提供 パナソニック株式会社）

松下記念図書館地鎮祭

松下記念図書館新築工事



什器・資料搬入前の図書館内

1971（昭46）.9 竣工式

竣工式と内部見学会

完成後の松下記念図書館

1971（昭46）.10

松下記念図書館 開館

鉄筋3階建、延床面積2,300㎡、閲覧席数270席、
書架収蔵力88,000冊の建物で、学部の図書館として
当時国内屈指の規模であった

コレクションは、小金井時代から学術雑誌を
図書館で集中的に管理する方針のもと整備が進められ、
加えて藤山工業図書館およびJICSTからの
移管資料を引き取り、約6万冊の蔵書となった

松下記念図書館 開館

開館当時の松下記念図書館正面入口

エントランス前の両脇にあった松下記念図書館銘板

新着雑誌書架とラウンジ

カウンターと目録ホール

EPISODE

松下記念図書館の思い出

青山 藤詞郎（理工学部名誉教授）

2階ロビー

自学自習室

1978年の夏、当時はまだ「地球温暖化」という言葉は耳にしませんでしたが、とても暑かった記憶があります。機械工学専攻博士課程3年だった私は、博士論文の執筆に追われていました。私が所属していた研究室「米津・稲崎研」はプレハブの旧34棟の2階にあったので、クーラーの無い部屋は日中に長居できる環境ではありませんでした。論文執筆にはいつも松下記念図書館を利用していました。当時の矢上キャンパスで冷房設備があったのは図書館と計算センターくらいで、入口を入ってすぐ左の階段を2階へ上がり、書庫の奥へ進むと、そこには静寂の場がありました。一人掛けの机と椅子がいくつかあり、ガス冷房の効いたそこは別天地で、執筆作業もはかどり、時々、うとうと眠りに落ちそうになることもありました。

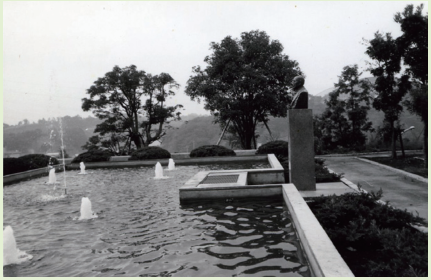
慶應義塾を退職後、久しぶりに矢上キャンパスを訪問し、書庫の奥へ行ってみると、そこに当時の自分を映しこむことができました。懐かしい思い出の場所です。理工学メディアセンターとして発展を遂げ、開館50年を迎えられたこと、心よりお祝いを申し上げます。

季節ごとに姿を変える図書館の景色

研究棟と松下記念図書館

雪の日の松下記念図書館

噴水越しの松下記念図書館と25棟



松下記念図書館前の池と藤原銀次郎胸像

松下記念図書館前の藤棚

EPISODE

矢上の動植物

長島 敏樹（メディアセンター職員）

矢上キャンパスには様々な動植物が暮らしています。かつて図書館の正面入口には藤棚があり、その先のフェンスには小さなブドウのような実をつけるエビヅルがからまっていました。フェンス脇の藪の中からは、飛ぶのが苦手な鳥・コジュケイの「チョットコーイ」という鳴き声も聞こえてきました。あるとき、図書館2階閲覧室の窓ガラスを突き破って鳩が飛び込んできて、大騒ぎになったこともありました。

創想館ができて環境が変わった今でも、キャンパス南側の斜面には春にピンク色のきれいな花を咲かせるベニバナトチノキが何本かあり、秋にはところどころでヒガンバナも咲いています。野良猫も時々見かけます。換気のために図書館の窓を開ければスズメバチが入ってくることもあります。

キャンパスの整備によって動植物は減りましたが、創想館の正面には楕円形の吹き抜けができ、著名な照明デザイナー・石井幹子さんによる光のモニュメントが設置されました。これはDNAのらせん構造を模しているそうで、この新たな生命（?）が、夜にキャンパスを訪れる人々をやわらかく迎えてくれています。

矢上キャンパス開設

1972（昭47）.4

理工学情報センター発足

図書館サービスの運営組織として研究・教育情報センターが1970年に発足し、段階的に三田、医学、日吉、理工学情報センターが設置された

1972（昭47）.4

矢上キャンパス開設

1974（昭49）.4

数理工学科新設

矢上キャンパス空撮

1977（昭52）.7～1980（昭55）.8

開館5年後には早くも書架不足となり、重複資料、旧藤山工業図書館資料、JICST寄贈資料を旧小金井キャンパスに移動

1978（昭53）.3

洋画家・清川泰次氏（経済学部卒）より抽象画作品「白の世界」2点の寄贈を受け館内に展示

1981（昭56）.4

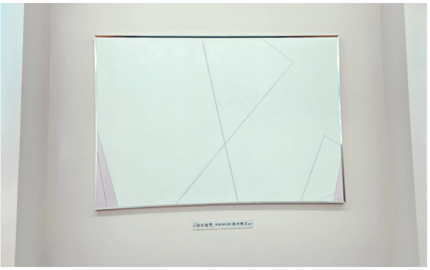
慶應義塾大学理工学部開設

物理学科、化学科新設

数理工学科を数理科学科へ改編

図書館遠景

小金井キャンパス倉庫内の資料



清川泰次　白の世界 No.62

図書館でディスカッションする学生たち

図書館1階書架と閲覧席

1982（昭57）.4

図書館利用オリエンテーションを実施

1982（昭57）.7

広報紙「理工学情報センターニュース」を刊行

1989年「インフォメーション」、
1998年「理工学メディアセンターニュース」と
タイトルを変更し、現在も刊行を継続

1985（昭60）.4

工学研究科を理工学研究科に改組

機械工学、電気工学、応用化学、
計測工学、管理工学、数理科学、
物理学、化学の8専攻体制となる

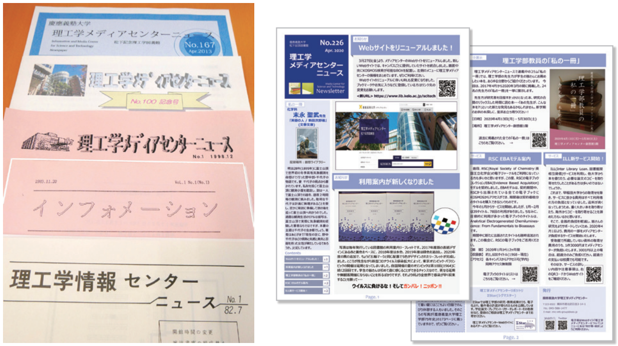
1985（昭60）.10

「早稲田大学および慶應義塾の
図書館相互利用に関する協定書」締結

翌年4月より本格運用開始

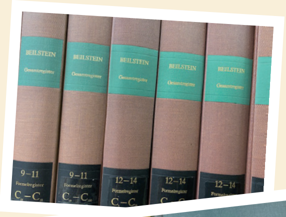
1985（昭60）.11

閲覧システム
CIRSYS稼働



広報誌の刊行

EPISODE



バイルシュタインとグメリン

長島 敏樹（メディアセンター職員）

「バイルシュタイン」と「グメリン」、どちらも化学者の名前ですが、図書館では資料の名称（略称）として使われていました。「バイルシュタイン」は「Beilsteins Handbuch der organischen Chemie」（有機化学ハンドブック）、「グメリン」は「Gmelins Handbuch der anorganischen Chemie」（無機化学ハンドブック）で、化学分野の文献や物質のデータ等を収録している資料です。理工学メディアセンター2階の今はグループ学習室となっている一角に書架があって、かつてはこの二つの資料がその書架の大部分を占めていました。大部な資料で、専門的な知識がなければ使いこなすことは難しく、図書館職員としては苦労した覚えがあります。先輩職員からは「グメリン使ったことあるか」とやや意地悪な質問をされたこともありました。ただ、名前がなんとなくカッコいい感じがして、使いこなせたら自分もカッコよくなれるような気がしていました。これらの資料も、現在はReaxysというデータベースになり、冊子体資料としては見られなくなってしまいました。

情報センターから メディアセンターへ

1987(昭62).6

開館時間の延長
(閉館時刻を平日19時から21時、
土曜16時から18時へ変更)

1987(昭62).11

小金井キャンパス売却決定

1989(平1).4

大学院理工学研究科に
計算機科学、物質科学、
生体医工学の3専攻を
増設

1989(平1).4

工学部創立50年記念事業として
厚生棟を新設

地下1階部分に書庫(現在の別館)
を設置し雑誌資料約12万冊を移動

1992(平4).12

図書館システムKOSMOS稼働
(富士通のILLS/X70をベースとした
集中型図書館統合システム)

閲覧業務は1993年3月にKOSMOSへ移行

1993(平5).4

研究·教育情報センターと
大学計算センターを統合して
メディアネットへ改組

理工学情報センターを
理工学メディアセンターに改称

1993(平5).7

利用者用OPAC稼働開始

1994(平6).10

全学の保存書庫として
山梨県に山中資料センター
開設

工学部創立50年式典の様子

上/山中資料センター1号棟外観　下/山中資料センター1号棟内部

厚生棟竣工式当日の図書館前

データベースと電子ジャーナル

学科改組シンポジウム　安西祐一郎学部長の挨拶

1995（平7）.6

データベース（CD-ROM）
検索サービス開始

矢上キャンパス内研究室から24時間
データベースアクセス可能に

CD-ROM検索コーナー

1996（平8）.3

山中資料センターに洋雑誌等
資料約4万冊を移動

1996（平8）.4

電子工学科、物理情報工学科、
システムデザイン工学科、情報工学科設置

電気工学科、計測工学科廃止
（10学科体制に改組）

1996（平8）.11

電子ジャーナル第1号としてIOP
（英国物理学会）の13タイトル
を購読契約

1999（平11）.1

図書館システムKOSMOSII稼働
（丸善CALISをもとにした機能分散型システム）

他地区メディアセンターと共同で
電子ジャーナルパッケージ
Academic Press/IDEAL、
ProQuest Directを導入

EPISODE

矢上お花見の会

三谷 三恵子（メディアセンター職員）

矢上キャンパスの桜

「矢上お花見の会」は、大学学部入学式の夕方から行われる、教職員の親睦を深めることができる恒例行事です。理工学部所属の教職員だけでなく、入学式の要員派遣で来た他キャンパスの教職員も参加する盛大な会です。矢上キャンパスの坂に咲く満開の桜を見ながらの食事は格別で、普段関わりがない部署の方や先生方と親交を深めることができます。

お花見の会は、各部署から招集された実行委員が企画、運営します。私が矢上に配属されていた当時、メディアセンターは「焼きそば」担当で、機械工学科の技術職員の方が作ってくださったヘラや鉄板のおかげで、一度に大量の焼きそばを作ることができました。焼きそばは人気メニューで、作っても作ってもすぐになくなるため、会が終わる頃には腕が痛くなったことも今では良い思い出です。矢上では教職員の行事がいくつかありましたが、お花見の会は1番好きな行事でした。

第3章

2000–2021

創想館竣工から現在

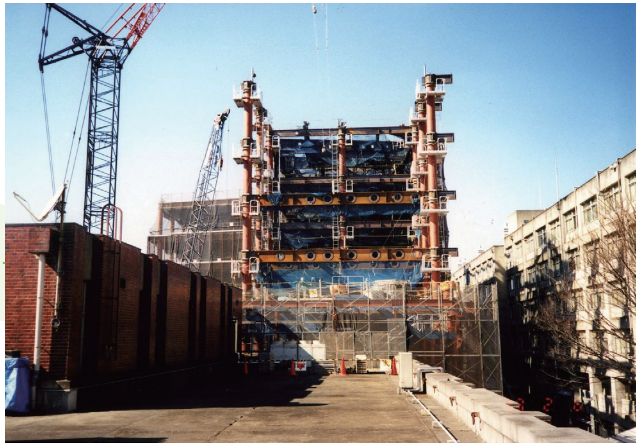
Photo：2010年代初頭の創想館

創想館地鎮祭　鳥居泰彦塾長の鍬入れ

25棟から見た創想館工事現場（左に図書館）

1998（平10）.2

創想館の地鎮祭が執り行われた



図書館屋上から組みあがった鉄骨を見上げる

創想館の建設

理工学部、大学院理工学研究科の総合的な組織改革理念のもと新棟の建設構想が練られ、「創造（creation）力」と「想像（imagination）力」から名付けられた創想館の建設が始まった。

EPISODE

創想館新築工事中の仮設出入口

Gateway or Ladies' room

関口 素子（メディアセンター職員）

一度の転出入を挟んで理工学メディアセンターでは11年半を過ごしました。1999年に矢上への異動を申し渡された瞬間は、遥か遠い世界に行くようで目が眩みました。日吉からの急坂辺りで迷いつつも辿り着いた先で最も衝撃的だったのは、女子トイレが出入口だったこと。創想館完成まであと半年に迫り、図書館本館の目の前には建築現場を囲む工事壁がそそり立ち、西面にある本来の出入口は閉鎖中。やむなく北面の女子トイレをぶち抜いて仮設の利用者用出入口としていたのでした。朝の出勤は通用口から入ったためそれに気付かず、館内で先輩職員の説明を聞き仰天しました。もちろんトイレの片鱗を感じさせない工夫がされていましたので、出入りに問題はなかったことも記しておきます。

翌年4月に工事壁が取り払われ、本館の本来の出入口が眩いばかりの創想館と繋がったときの感動はひとしおでした。そして元出入口は、何事もなかったかのように女子トイレに戻されました。

創想館時代のサービス

1階にラウンジ、情報コンセント付閲覧席、AVコーナー、
教養本コーナー「創想ライブラリー」を設けたほか
地階には自習室、プレゼンテーションルーム、
本館2階にはグループ学習室を設置するなど
施設面での充実を図った。

創想館外観遠景（南側ほぼ正面から）

2000（平12）.1

創想館（14棟）竣工

地下2階・地上7階

ガラス張りの吹き抜けが特徴的な
オーバル（楕円）ドーム構造

2000（平12）.3

創想館開館

1階・地下1階に図書館を拡張

14棟に対して松下記念図書館を
本館と呼称

2000（平12）.4

大学院理工学研究科改組

基礎理工学、総合デザイン工学、
開放環境科学の3専攻を設置

既存の11専攻を廃止

2000（平12）.4

借りた資料を所蔵館以外の
メディアセンターに返却できる
「どこでも返却」制度を開始
（開始当初は日吉への返却は不可）

創想館完成時の矢上空撮（南東から）

創想館完成時のメディアセンター内部

館内サインを設置

2002（平14）.4
生命情報学科新設
（11科体制に変更）

2001（平13）.9
教養本コレクション
「創想ライブラリー」コーナーを
創想館1階に新設

2001（平13）.6
ILLや購入希望などの
Web受付開始

2001（平13）.5
理工学メディアセンター
ホームページ新装オープン

2001（平13）.4
館内サインリニューアル

2001（平13）.1
日曜開館を開始
（学期末試験期限定）

創想ライブラリー

本館1階レファレンスカウンター前の様子

創想館の蔵書検索用パソコン

留学生ガイダンス

2002（平14）.12

理工学メディアセンター全所蔵資料が
蔵書検索システムKOSMOSで検索可能に

閲覧用目録カードボックスを撤去

2004（平16）.4

メディアネットを廃止し
メディアセンターとして独立

創想館地階閲覧室（現在の自習室）が
ICカードによる入室管理により
深夜0時まで利用可能に

2004（平16）.9

国際コース、一般留学生対象の
英語による館内ツアー開催
（以降、留学生ガイダンスの一環として実施）

2005（平17）.4

2001年以降の博士論文、
1997年以降の修士論文要旨を
「学位論文データベース」にて公開

EPISODE

学位論文とTeXと…

木下 和彦（メディアセンター職員）

楽々LATEX 第2版

学位論文データベースの運用を開始した2005年頃は、搭載形式であるPDFの作成は簡単ではありませんでした。WordにもPDFに変換・保存する機能はありません。そのため、学生がPDFを作成できない場合、論文のファイルをメディアセンターでPDF化していました。

当時、論文作成はWordよりもTeX（LaTeX）が一般的でした。メディアセンターの業務では全く使わないため、本やインターネットで苦労して学びましたが、それでもPDFに変換できないエラーが頻発して困りました。TeXには様々なオプションがあり、多くはそれに由来しているエラーのようでした。

しかし、理工学部にはそんなときに心強い味方がいらっしゃいました。数理科学科の野寺隆志先生です。先生は「楽々LaTeX」という本を書かれ、(La)TeX界では超有名人。学位論文データベース検討委員会のメンバーでもいらしたので、これは頼りにするしかありません！困ったことがあって質問に行くと、先生の口調はぶっきらぼうながら表情はいつもニヤニヤとお返事くださいました。そんなご縁からキャンパス内でも声をかけてくださるようになり、私が矢上から異動する時には、先生のサイン本をプレゼントしていただきました。いまや、ΣStar（シグマスター）には学位論文のPDFが当たり前のように搭載されていますが、当時の苦労を振り返ると先生との思い出がともに蘇ります。

2009年ごろの創想館

2010年ごろの創想館

2006（平18）.4

本館1階に「PCエリア」新設

新設したPCエリア

2006（平18）.11

学術情報リポジトリ「KOARA」公開

keio.jpによるリモートアクセスサービス開始

2007（平19）.5

麻疹（はしか）流行による学部・研究科の休校に伴い臨時休館（7日間）

2008（平20）.11

慶應義塾創立150年記念式典挙行

EPISODE

データの宝庫としての交流と憩いの場

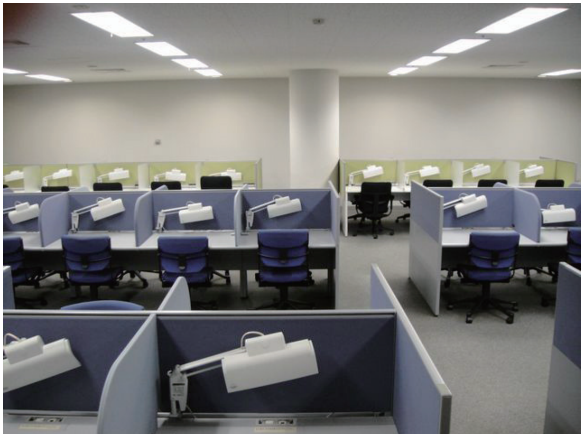
村上 俊之（理工学部長）

松下記念図書館前の藤棚

学部学生時代は理工学メディアセンター前の藤棚（現在14棟のある場所）が談笑の場であり、待ち合わせの場にもなっていました。また、メディアセンター2階のソファに座って新聞を読み、何となく藤棚を眺めながら季節の移り変わりの余韻に浸ることもしばしばあった気がします。

こうした息抜きもしつつ、大学院時代は1階の書庫で国外学会誌や国際会議プロシーディングを読み漁っていました。ある意味で研究の種を探し当てるデータ宝庫の場という感覚でした。

教員になってからは、電子ジャーナル化によりいつでもどこでも必要な情報にアクセスできる時代となり、メディアセンターへのバーチャルアクセスの機能がとても便利になったため、直接お伺いする機会が昔ほど多くはありませんが、フィジカルアクセスをすると、今でも安らぎが感じられる不思議な場になっています。



リニューアル後の自習室

新設した静かエリア

2009（平21）.2

創想館地階閲覧室を「自習室」にリニューアル、
3月には本館1階に「静かエリア」を設置し
快適な個人学習空間を整備

2010（平22）.3

図書館システムKOSMOSIII稼働
（Ex Libris社の統合図書館システム）

2010（平22）.4

本館2階に「グループ学習室」を新設し
多様な学習スタイルと学生の
ニーズに合わせた環境に刷新

学術情報リポジトリ「ΣStar」、
学位論文データベースを吸収し公開

本館2階グループ学習室

EPISODE

グループ学習室

アイデアルーム

グループ学習室の新設

吉井 由希子（メディアセンター職員）

本館2階に二つのグループ学習室があります。一つは、明るい黄緑色で背もたれの高いファミレス型ベンチソファが置かれたポップな部屋、もう一つは、四方の壁すべてがホワイトボードのシンプルな部屋です。これらは、3年かけて行った理工学メディアセンター全体の資料と閲覧席の再配置プロジェクトの一環として、2010年4月に誕生しました。それほど大きなスペースは確保できず、グループ学習室というよりは「小部屋」という方がしっくりくる広さですが、矢上キャンパスの学生にとって居心地が良く、使い勝手の良い場所になることを願って、海外図書館のデザインなどを参考にしながら、何度も議論を重ねて完成しました。

壁いっぱいに書かれた数式、リラックスしながら、あるいは集中してディスカッションする学生の姿など、思い描いていた通りの光景を目にしたとき、とても嬉しく感じたことを懐かしく思い出します。

2010（平22）.4

学生スタッフによる図書館での
新しいコミュニケーションの場の創生を目指し
「S-Circle：塾生による塾生のための相談窓口」を開設

2015年3月で活動終了となったが、その後
「ラーニングサポート」サービスに引き継がれた

2011（平23）.3

創想館1階フロアを
リニューアル

リニューアル前の創想館

S-Circleの活動1

リニューアル前の創想館PCエリア

S-Circleの活動2

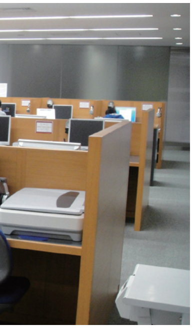
リニューアル後の創想館

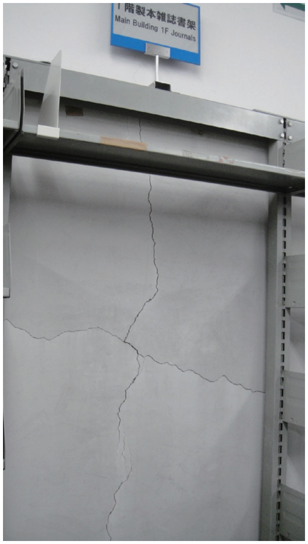
2011（平23）.3.11

東日本大震災により矢上キャンパス入構禁止（〜3.31）

理工学メディアセンターにも被害があり、
免震構造の創想館には影響がなかったが
本館ではガラス割れや壁の亀裂、資料の落下などが発生した

東日本大震災発生





地震によるひび割れ

本館2階 書架から落下した製本雑誌

2012（平24）.4

クオーター制開始（物理A·B·C·D）

2014年度からは4学期制に改称

2014（平26）.4

館内サインリニューアル

2014（平26）.6

理工学部創立75年記念式典挙行

『慶應義塾大学理工学部75年史』発行

小·中·高校生向けプログラム「ひらめき☆ときめき」サイエンスの様子

理工学部創立75年記念式典の様子

館内サインリニューアル

2015（平27）.4

大学院生スタッフが学習相談を受ける
「ラーニングサポート」サービスを開始

2016（平28）.3

白楽サテライトライブラリー閉鎖

2016（平28）.4

山中資料センター
2号棟開設

2016（平28）.11

創想館ラウンジに
4K大型テレビ設置

2019（令1）.9

図書館システムKOSMOSⅣ稼働
（Ex Libris社のクラウド型システム）

早稲田大学図書館との
システム共同運用を開始

ラーニングサポートの様子

大型テレビでのライブビューイング

EPISODE

ラーニングサポートの様子

ラーニングサポートの活動

定光 勇太（理工学部塾員）

私は、ラーニングサポートのサービスが新たに開設されたとき、学生スタッフとして加わりました。ラーニングサポートの前身である学生相談窓口「S-Circle」の活動に興味を持っていたため、スタッフ募集の掲示を見た瞬間、応募を決意したことを覚えています。ラーニングサポートではメインとなる学習相談も良い経験でしたが、個人的には図書館の補助業務が特に印象深く、記憶に残っています。電子ジャーナルのリンク確認や電子データで提出された修論・博論のエラーチェックなど、普段知ることのない図書館の裏側を垣間見ることができたのは、今思い返してみても貴重な体験だったと思います。メディアセンターには大変お世話になり感謝していましたが、大学を卒業し、なかなか通うことができなくなった今、そのありがたさを改めて痛感しています。

最後になりましたが、この度は松下記念図書館開館50年、誠におめでとうございます。

消毒液設置

規制線が張られた館内

新型コロナウイルス
感染拡大の影響

2020(令2).4

新学門制導入

電子工学科を電気情報工学科に改称

新型コロナウイルス感染拡大防止のため
矢上キャンパス入構禁止

2020(令2).4~6

メディアセンター臨時休館 (4/6~6/7)

5月からオンラインガイド(LibGuides)の提供、
ラーニングサポートのオンライン相談開始

6月から資料の郵送貸出サービス開始、
事前申請制での入館利用を許可

飛沫防止パーティション設置

利用可能席を約3割に制限し
申請制で閲覧席の利用再開

コピー室をセミナールームCに改装、
カーペット・ラウンジソファ布地の張り替え、
壁の塗り替えを実施し館内を一新

2020（令2）.9

張り替えたラウンジソファ

一新されたカーペット

セミナールームC

ポストコロナに向けて サービスのオンライン化を推進

2021（令和3）.4～

「オンライン・ツアー」
ショートムービーを作成

文献探索セミナー、各種セミナーを
オンラインにて再開

ラーニングサポート、
ハイフレックス型での相談受付開始

オンラインツアー・ショートムービー

オンラインセミナー ポスター

キャンパス別探し方ガイド

LINEアカウント開設告知ポスター

EPISODE

松下記念図書館開館50年に寄せて

伊藤 公平（慶應義塾長）

松下記念図書館開館50年記念展示の様子

松下記念図書館には理工学部3年生の1987年以来お世話になっています。テーマごとに実に上手に書架が整理され和書・洋書ともに充実しているため、例えば「半導体の物理について調べたい」と思うとその書架にまっしぐら。「私を手に取って！」と主張する背表紙たちを前にする高揚感は学生・研究者ならではの体験です。この書架の伝統はしっかりと受け継がれていますが、本と学術誌の電子化の流れも急激です。その中においてもライブラリアンの皆さんの尽力の成果として、松下記念図書館が現代的なメディアセンターとして常に発展を遂げてきたことに心からの敬意を表します。

オンライン化の充実により様々な書籍や文献にリモートでアクセスできるようになる一方、松下記念図書館内においては、ライブラリアンお薦めの専門書以外の本を手に取って読める創想ライブラリー、写真や歴史的書物等の企画展示、ビブリオバトルといったライブイベントなどが企画され、施設面においても伝統的な読書スペースに加えて、ディスカッションスペースや個人学習ブースといった空間がしっかりと用意されています。

松下記念図書館の今後益々の発展を期待して楽しみにしています。

APPENDIX

資 料

■企画展示 …… 36
■イベント …… 38
■統計 …… 40
■館長・所長一覧 …… 41

企画展示

学生への広報･利用促進の一環として理工学分野に関わる
話題のテーマとともに所蔵資料を紹介している。

2003（平15）

5.20

中学･高等学校用教科書の世界
～理工学教育は今！～

8.19

オープンキャンパス企画
「有人宇宙飛行～宇宙工学への招待～」

8.18

教科書に見る近代の科学者

11.27

福澤諭吉著『訓蒙 窮理図解』：
日本初の科学入門書を見る

2004（平16）

1.15

数学の世界 ～ガウスとブール～

2005（平17）

1.13

アイザック･ニュートン
-ニュートンを今に伝えるもの-

3.18

アインシュタイン
奇跡の年から100周年 -世界物理年-

11.29

ドイツが生んだ科学者たち：
慶應義塾とドイツ

2006（平18）

3.23

写真で辿る理工学部の歴史

【再展示】2007（平19）.3.14
2008（平20）.3.24
2009（平21）.3.24
2013（平25）.11.13

2007（平19）

6.23

オイラーとSUDOKU（数独）

2008（平20）

6.16

日本が生んだ世界食！
インスタントラーメン50年の歴史

8.19

有人宇宙飛行への招待

12.12

関孝和と和算

2009（平21）

12.18

ダーウィンと種の起源

2010（平22）

5.17

窮理図解を見てみよう

2013（平25）

5.7

星出彰彦宇宙飛行士と
宇宙を飛んだ「扇子」

2014（平26）

3.1

理工学部創立75年記念展示
福澤諭吉とサイヤンス

5.27

理工学部創立75年記念展示
写真で辿る理工学部の歴史

12.2

鳥の飛翔に関する手稿

2015（平27）

1.9

福澤先生誕生記念 福澤諭吉著作展

4.1

自然科学の偉人に学ぼう

6.8

アインシュタインの見た日本

8.4

YUTORI Is Over
～ゆとり教育は終わった～

10.2

ブルーバックスを知っていますか

12.1

教員著作コレクションへようこそ

2016
（平28）

1.6

福澤先生誕生記念
福澤諭吉の著作

2.3

映画になった科学者たち

4.5

科学者としての
レオナルド・ダ・ヴィンチ

6.6

カタログでみる建築展

6.16

藤原銀次郎と藤原工業大学
（理工学部創立記念日展示）
【再展示】2017（平29）.6.17

8.1

矢上での生活
（オープンライブラリー連動企画）
【再展示】2017（平29）.8.1
2018（平30）.8.1
2019（令1）.8.1

8.1

矢上での活躍
（オープンライブラリー連動企画）
【再展示】2017（平29）.8.1

10.3

SF小説が空想する未来

12.1

本の福袋
【再展示】2017（平29）.1.11
2017（平29）.12.1
2018（平30）.12.3

2017
（平29）

2.1

科学者たちと音楽
【再展示】2017（平29）.6.1

10.2

福澤諭吉と科学教育
～窮理図解を中心に～

2018
（平30）

4.2

理工学部教員の『私の一冊』
【再展示】2019（平31）.4.2
2020（令2）.10.19
2021（令3）.6.1

6.1

ご存知ですか、ファインマン先生

8.1

学生スタッフにききました！
（「矢上での生活」連動企画）

10.15

エコール・ポリテクニック、
学生たちの日本へのまなざし

2019
（令1）

6.3

古典に見る黎明期の数学
～ユークリッド、オイラー、
ガウス、アーベル～

8.1

サイバスロン車いすシリーズ
3位入賞記念
（オープンライブラリー連動小展示）

10.1

アジア初の新元素 ニホニウム
その発見と命名

12.2

選書ツアー

2021
（令3）

10.18

開館50年記念
写真でたどる
理工学メディアセンターのあゆみ

メディアセンターに親しむきっかけづくりや利用促進のため
学生参加型のイベントを各種企画している。

サイエンスカフェ

第1回 2010（平22）.6.30　情報工学科　山崎信行先生
ヒューマノイドロボットの電子制御

第2回 2010（平22）.11.26　生命情報学科　牛場潤一先生
人と機械をつなぐ、その先の未来

第3回 2012（平24）.7.12　機械工学科　鈴木哲也先生
ダイヤモンドの秘密

第4回 2012（平24）.12.5　理工学部特任教授　米田雅子先生
震災復興の現状と南海トラフへの備え

第5回 2013（平25）.7.1　生命情報学科　岡浩太郎先生
生命現象を見える化する技術
～光で調べ、光で測り、光で操作する～

第6回 2013（平25）.11.11　機械工学科　三木則尚先生
小さな機械による新しい医療の姿

第7回 2014（平26）.7.3　物理学科　渡邉紳一先生
「電波」と「光」のはざまの物理学
～新しい光を使ったモノの見方～

第8回 2014（平26）.11.10　化学科　栄長泰明先生
ダイヤモンドが電極？
～環境改善や医療応用に使える新材料～

第9回 2015（平27）.7.8　管理工学科　枇々木規雄先生
お金を科学する ～金融工学への招待～

第10回 2016（平28）.6.15　電子工学科　青木義満先生
画像認識にみる人工知能の現在と未来

番外編 2016（平28）.6.27　電子工学科　眞田幸俊先生
兄信之から見た真田幸村

第11回 2017（平29）.5.15　情報工学科　金子晋丈先生
ハリウッドから見たメディアインフラの未来

第12回 2017（平29）.6.27　システムデザイン工学科　ホルヘ・アルマザン先生
ACTIONSCAPES：活動を誘発する建築

第13回 2018（平30）.5.23　システムデザイン工学科　野崎貴裕先生
人に優しい電動機駆動技術を応用した
最先端双腕型ロボットの研究

第14回 2018（平30）.6.22　生命情報学科　榊原康文先生
第三次人工知能ブームがもたらした
生命科学における革新
～塾生なら誰でも使える人工知能Watson～

第15回 2018（平30）.10.24　機械工学科　石上玄也先生
“流浪者”が拓く宇宙探査とその未来

第16回 2019（令1）.6.13　システムデザイン工学科　柿沼康弘先生
変わるものづくり：第4次産業革命の到来

第17回 2019（令1）.11.12　数理科学科　早野健太先生
ひもの絡まり方は同じ？
～数学でひもを区別する～

第18回 2021（令3）.6.24　応用化学科　藤岡沙都子先生
微細気泡・微小液滴の化学プロセスへの応用

第19回 2021（令3）.10.26　情報工学科　杉浦裕太先生
生活に溶け込む人工知能による病気発見：
医工連携におけるLessons Learned

番外編 2021（令3）.12.23　情報工学科　笹瀬巌先生
ワインの楽しみ方入門
～歴史・科学・文化の側面から～

選 書 ツ ア ー

2019（令1）.9.20
選書ツアー

2021（令3）.9.9
選書ツアー

メ デ ィ ア d e シ ネ マ

2016（平28）.12.20	4Kテレビお披露目イベント　ハリー・ポッターと炎のゴブレット
2016（平28）.12.21	4Kテレビお披露目イベント　ラブ・アクチュアリー
2017（平29）.4.13	ゼロ・グラビティ
2017（平29）.4.20	ハドソン川の奇跡
2017（平29）.7.7	ラスベガスをぶっつぶせ
2017（平29）.9.21	インディペンデンス・デイ & インディペンデンス・デイ:リサージェンス
2017（平29）.11.16	慰めの報酬
2018（平30）.1.31	ナイトミュージアム
2018（平30）.2.1	ソーシャル・ネットワーク & 天使と悪魔
2018（平30）.4.19	きっと、うまくいく
2018（平30）.7.31	アバター
2018（平30）.9.28	イミテーション・ゲーム
2018（平30）.11.15	デイ・アフター・トゥモロー
2019（平31）.4.19	オデッセイ
2019（令1）.9.27	奇蹟がくれた数式

ビ ブ リ オ バ ト ル

2014（平26）.10.29
第1回 知的書評合戦ビブリオバトル

2015（平27）.10.28
第2回 知的書評合戦ビブリオバトル

2016（平28）.10.26
第3回 知的書評合戦ビブリオバトル

2017（平29）.10.27
第4回 知的書評合戦ビブリオバトル

2017（平29）.12.20
矢上・日吉・SFC ビブリオバトル地区対抗戦

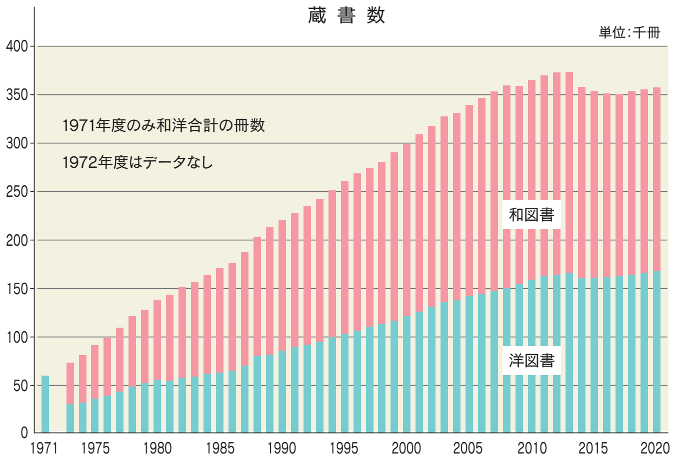
プ レ ゼ ン バ ト ル

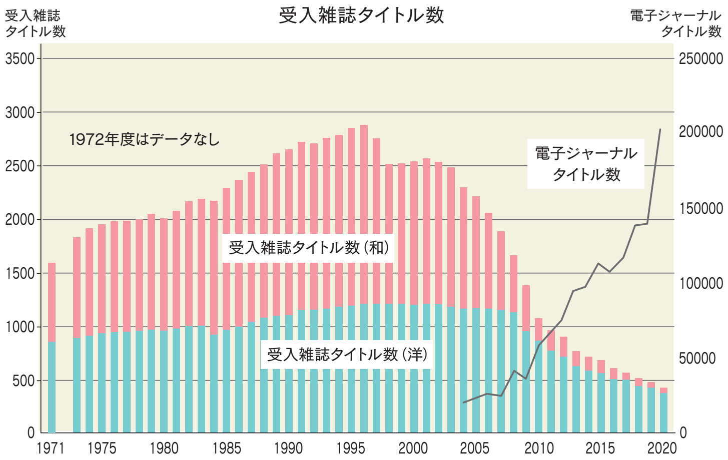
2019（令1）.10.18
第1回 プレゼンバトル

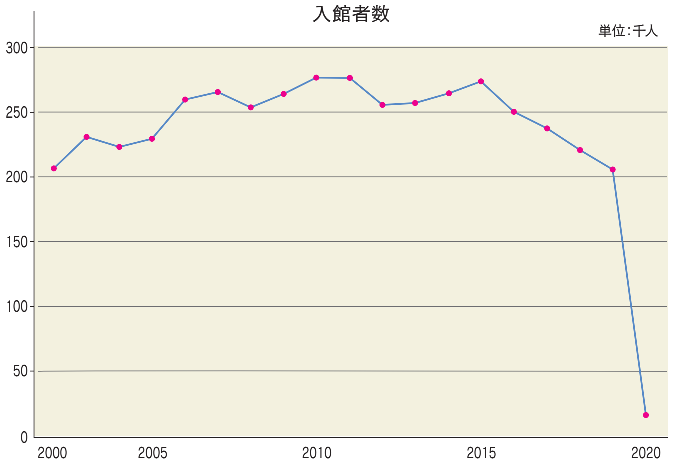
統　　計

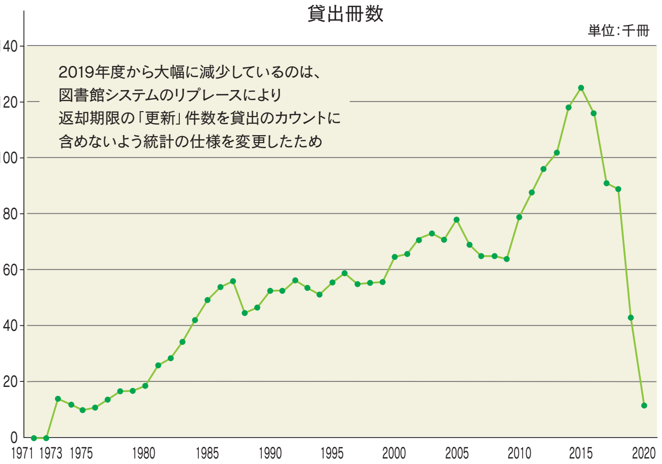
理工学メディアセンターの歴史を主要な指標の統計データで振り返る。

年々増加の一途をたどってきた蔵書数は書庫の狭隘化もあって2010年代から横ばいとなっている。
理工学部において重要な情報資源である雑誌は、2010年前後から急激に電子媒体に置き換わり、リモートアクセスによる利便性の向上とともに入館者数が徐々に減少しているのがわかる。2020年度の極端な減少は新型コロナウイルス感染予防対策による一時閉館と入館制限の影響を受けたものである。









データ出典：『日本の図書館』（日本図書館協会），『MediaNet』（慶應義塾大学メディアセンター）

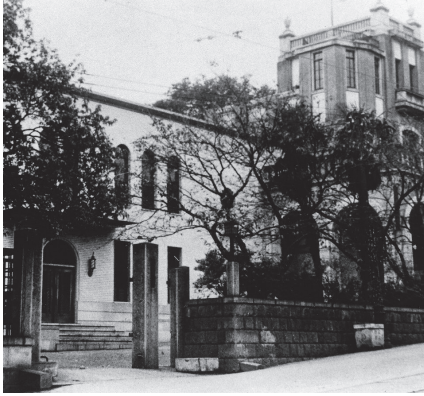
館長・所長一覧

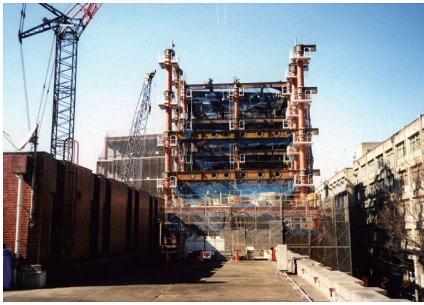
藤山工業図書館（芝白金）	1944（昭19）.3	佐藤 信彦	慶應義塾大学予科の教員任期中に事務監督・主事を兼務し、その後文学部教授
	1944（昭19）.7	谷村 豊太郎	初代工学部長
	1946（昭21）.1	宗宮 知行	電気工学科
	1947（昭22）.5	野村 兼太郎	経済学部（慶應義塾図書館（三田）館長と兼任）

工学図書館（小金井）※	1965（昭40）.10	高橋 吉之助	管理工学科（工学図書館初代館長）
	1971（昭46）.4	須網 哲夫	応用化学科
理工学情報センター（矢上）	1972（昭47）.4	阿部 芳郎	応用化学科
	1976（昭51）.4	堀内 敏夫	計測工学科
	1977（昭52）.7	有賀 一郎	機械工学科
	1980（昭55）.10	鷲尾 泰俊	管理工学科
	1984（昭59）.4	天野 弘	電気工学科
	1986（昭61）.4	北川 節	計測工学科
	1987（昭62）.10	大場 勇治郎	計測工学科
	1989（平1）.10	白井 恒雄	応用化学科
	1990（平2）.4	山口 喬	応用化学科
理工学メディアセンター（矢上）	1993（平5）.10	小沢 慎治	電気工学科
	1995（平7）.10	中川 正雄	電気工学科・情報科学科
	2001（平13）.10	原田 賢一	情報工学科
	2005（平17）.10	佐野 昭	システムデザイン工学科
	2007（平19）.10	椎木 一夫	物理情報学科
	2012（平24）.4	前田 吉昭	数理科学科
	2014（平26）.4	笹瀬 巌	情報工学科
	2021（令3）.10	田中 敏幸	物理情報工学科

（敬称略，年月は就任開始年月）

※工学図書館の前身である工学部図書室（1944-1958）、中央図書館（三田）小金井分室の時代（1958-1965.9）は、館長の設置なし。
また工学図書館時代は、三田キャンパス以外の図書館長を「副館長」と称していたが、ここでは館長として扱う。





REFERENCES

主要参考文献

『慶應義塾大学理工学部75年史：1939-2014』
慶應義塾大学理工学部創立75年記念史編纂委員会編. 横浜：慶應義塾大学理工学部, 2014.5

『慶應義塾百年史』 慶応義塾編集. 東京：慶応義塾, 1958.11-1969.3

『慶應義塾年表』 [慶應義塾編]. [東京]: [慶應義塾], [1969.5]

『慶應義塾年鑑』 塾監局編. 東京：慶應義塾, 1964-

『慶應義塾史事典』 慶応義塾史事典編集委員会編. 東京：慶応義塾, 2008.11

『塾監局小史』 慶應義塾職員会編. 東京：慶應義塾職員会, 1960.12

『塾監局小史. II』 『塾監局小史』II 編集委員会編. 東京：[塾監局], 1987.3

『塾監局小史. III』 塾監局小史編集委員会編. 東京：塾監局小史編集委員会, 2018.3

『慶應義塾報』 慶応義塾塾監局[編]. 東京：慶応義塾塾監局, 1960-

EDITOR'S NOTE

編集後記

「理工学メディアセンターの本館である松下記念図書館が竣工したのが1971年なので、今年は開館50年に当たるのでは？」とある職員が気付いたのが2021年1月。節目の記念に何かしたい！と慌ただしく企画検討が始まりました。

2021年度の予算申請も終わった段階で周年の年であることが発覚したため、大きなことはできません。そんななかでも熱意ある職員たちのアイデアと努力により、記録写真を元に理工学メディアセンターの歴史を振り返るムービーの作成・公開、パネル写真の展示などを行いました。

周年企画の最後を飾るのが本誌『写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ』の製作です。先に公開したムービーの内容を踏襲し、当時の写真とともに年表形式で気軽に歴史をたどれる冊子を目指しました。

編集委員の多くは理工学メディアセンターでの経験年数が少なかったのですが、理工学部の年史や義塾の刊行物をひっくり返し、過去の年史編集の際に整理された写真を見比べながら、学部の成り立ちや図書館の来し方を学ぶ絶好の機会となりました。

『**藤原工業大学開校記念誌**』 藤原工業大学編. 横浜：藤原工業大学, 1939

『**Medianet**』 慶應義塾大学メディアネット[編]. 東京：慶應義塾大学メディアネット本部, 1993.11-

『**KULIC**』 慶応義塾研究･教育情報センター本部事務室. 東京：慶応義塾研究･教育情報センター本部事務室, 1970-1992

『**八角塔**』 慶應義塾図書館[編]. 東京：慶應義塾図書館, 1967-1970

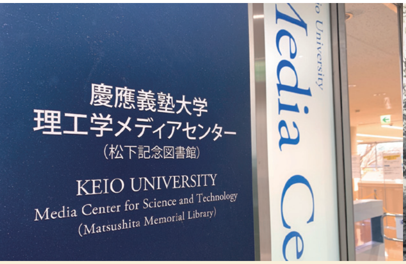
『**理工学メディアセンターニュース**』横浜：慶應義塾大学理工学メディアセンター, 1998.12-

『**慶應義塾図書館史稿一九七〇～二〇一二：開館一〇〇年記念**』 石黒敦子[ほか]編集･執筆；新井圭子[ほか]執筆協力. 東京：慶應義塾図書館, 2012.4

『**日本の図書館：全国公共読書施設および大学図書館の実体調査･集計**』 日本図書館協会[編集]. 東京：日本図書館協会, 1954-

写真提供

パナソニック株式会社　　慶應義塾福澤研究センター　　慶應義塾広報室　　慶應義塾大学理工学メディアセンター



私自身、コロナ禍中の2020年11月に事務長として着任し、現在とこれからのことにしか目が向いていなかったところ、本誌の製作を通して、時代の移り変わりとともに図書館がどう変わってきたか改めて振り返ることができました。

その変化を現場で身近に感じてきた当事者の方々の声も伺いたく、所縁のある教員、理工学メディアセンターで働いた経験のある職員の思い出も「EPISODE」として寄せていただきました。伊藤公平塾長はじめご寄稿くださった皆様のご協力に深く感謝いたします。

図書館をめぐる環境の変化は近年激しく、これまでも顕著だった資料の電子化の流れがコロナ禍でより一層加速しました。授業やセミナーのオンライン化により来館者数は減っていますが、それがリモートで提供できるサービスの向上を促しています。次の50年後の年史も内容豊かなものとなるよう、今後もその変化に柔軟に対応していければと思います。

河野江津子（理工学メディアセンター事務長）

写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ

松下記念図書館開館50年記念

2022年3月31日発行

編集／発行　慶應義塾大学理工学メディアセンター

〒223-8522　神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1

https://www.lib.keio.ac.jp/scitech/

制作／印刷　株式会社フジプランズ

『写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ』編集委員

編集長　河野江津子

編集委員　浅尾千夏子　西條智架　三宅薫子　近藤まゆか

特別協力　五十嵐由美子

50

History of Media Center for Science and Technology
Matsushita Memorial Library 50th Anniversary

Keio University Media Center for Science and Technology